がじまる

みんなで祝おう 50周年
みんなで進もう 名護市の未来

8月

323

2021年8月 1 日

編集発行：名護市立中央図書館
〒905-0011　沖縄県名護市宮里5−6−1
TEL:0980-53-7246　FAX:0980-52-2607
http://www.city.nago.okinawa.jp/library/

WEB予約の受付条件について

名護市立図書館のWEB予約の受付には次の条件があります。

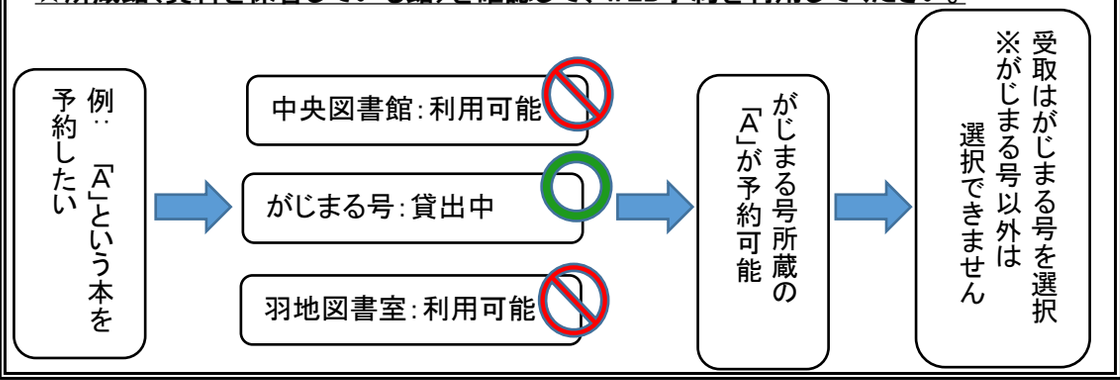
1　名護市在住の方

2　マイページにログインできること。
（中学生以下の方は仮パスワードを図書館で発行します。利用カードを準備して図書館にご連絡ください。）

3　WEB予約ができるのは<u>資料状態が「貸出中」の資料だけ</u>です。

4　資料が、中央図書館、がじまる号、羽地図書室のいずれかの館とあわせて複数ある場合は、予約資料の受取りは貸出中の所蔵館（資料を保管している館）になります。

☆<u>所蔵館（資料を保管している館）を確認して、WEB予約を利用してください。</u>



6月の統計

本館貸出冊数	31	冊
がじまる号貸出冊数	0	冊
羽地地区ｾﾝﾀｰ貸出冊数	0	冊
全館貸出冊数	31	冊
開館日数	0	日
予約件数	0	件
来館者数	0	人
登録者数		
（月）	4	人
（累計）	57,466	人

新 着 本 案 内（8月）

新着資料は他にもあります。詳しくは新着本案内（館内新刊コーナーにあります）を御覧ください。館内利用者用検索端末、または名護市立中央図書館ホームページにて御覧いただけます。なお、貸出中の場合は予約をすることができます。

一般

・『ドラゴン桜　超バカ読書』
桜木健二／著　徳間書店

・『仕事だいじょうぶの本』
北岡祐子／著　ペンコム

・『ヒポクラテスの悔恨』
中山七里／著　祥伝社

・『ワタナベマキの梅料理』
ワタナベマキ／著　NHK出版

・『ワイン完全バイブル　第2版』
井手勝茂／監修　ナツメ社

郷土

・『傷痕のメッセージ』
知念実希人／著　KADOKAWA

・『写真集　闘牛女子。3』
久高　幸枝／写真・文　ﾎﾞｰﾀﾞｰｲﾝｸ

・『語りつぐ戦争　第4集
—市民の戦時・戦後体験記録』
名護市教育委員会／編・発行

・『居場所がない—高齢者・万引き・再犯』
玉城英彦　ほか／編著　人間と歴史社

・『沖縄経済と業界発展—歴史と展望—』
大城肇　他／著　光文堂ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ

児童

・『なぁなぁ、あそぼ～！』
さいとうしのぶ／作　岩崎書店

・『トリケラトプスとケツァルコアトルス
—きょだいよくりゅうとたたかうまき』
黒川みつひろ／作・絵　小峰書店

・『これが鳥獣戯画でござる』
結城昌子／構成・文　小学館

・『ひかる石のおはなし』
小手鞠るい／作　あかね書房

・『知っておきたい世の中のお金』
泉美智子／監修　ナツメ社

休館日とがじまる号巡回スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
1	2 全館定期休館日	3	4 風の子保育園	5 星のしずく保育園	6 瀬嵩保育所	7
8 山の日 中央図書館開館 羽地図書室休館	9 山の日振替休日 中央図書館開館 羽地図書室休館	10 全館振替休館	11	12 伊差川保育園	13 銀のすず保育園	14
15 羽地図書室休館	16 全館定期休館日	17	18	19 やまびこ久辺保育園 許田ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	20 勝山病院	21
22 羽地図書室休館	23 全館定期休館日	24 聖ルカ保育園	25 あすなろ東 認定こども園 東江地区会館	26 整理休館日	27	28
29 羽地図書室休館	30 全館定期休館日	31				

羽地図書室だより

羽地図書室にも、感想文、感想画の指定・課題図書を置いています。
ぜひ、羽地図書室も活用してください。
今月の特集：指定・課題図書
2021絵本50選
ひとはこ文庫：村上春樹

羽地図書室でも、中央図書館やがじまる号の本を返すことができるよ。また、羽地図書室の本を借りたい場合は、直接借りに行くか、中央図書館窓口でリクエストをしてね（渡すまでに時間がかかる場合があります）

羽地図書室（羽地地区センター内）
◇住所　〒905-1144　名護市字仲尾次８２９番地
◇電話　0980-58-1221（代表）
◇開館時間　火曜日～土曜日　11：00～17：00

職員オススメの本

『白い犬とワルツを』　著/テリー・ケイ
訳/ 兼武進　出版/新潮社

長年連れ添った妻に先立たれた老人サム。頑固だが実直で優しい彼は、癌に侵された自らの短い余生を、子供たちに愛され心配されながらもひとりで生き抜こうとする。そんな彼の前に一匹の白い犬が現れる。サムは次第に心を開き、自分にしか見えないその不思議な犬と寄り添うように日々を送っていく。

妻を失った哀しみや淋しさにただ陰々鬱々とふさぎ込むのではなく、彼女との出会いやこれまで辿った人生を慈しみながら、尚も誠実に一日一日を生き、与えられた生を全うする。そんなサムの生きざまが爽やかで潔い。まっすぐで美しい心温まる作品です。（みくちょ）